

## 本時のねらい

デジタル教科書の動画に合わせてアフレコし、正しい発音で抑揚をつけながら登場人物になりきって話すことができる。

## 本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

タブレットドリルやタイピングアプリを用いて、単語のつづりを定着し、タイピングの苦手意識を克服する。

動画に合わせて、アフレコすることにより、発話に集中して、スピーキングにおける正確性、流暢性を高める。

## 活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・タブレット PC ・学習アプリ（早打ち英文法） ・指導者用デジタル教科書(Sunshine1) ・カメラアプリ（動画撮影）

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (5分)	・アプリ「早打ち英文法」を用いて「一般動詞」に関する練習問題を行い、単語のつづりを復習する。	・自分で発音しながら、練習問題を行う。自動再生されるネイティブスピーカーの発話音声を聞き、正しく発音できたか確認する。
展開 (40分)	・デジタル教科書の内容をアフレコする。 ・動画にあわせて音読する。 ・暗記した本文をデジタル教科書の映像を見ながらアフレコし、その音声を録音する。 ・吹き込んだ音声を聞き、改善点を考える。 ・日本語訳を考え、プリントに書く。 ・タブレットドリルを用いて、「助動詞 Can」を学習する。	・動画を見ながら場面を確認することにより、相手に伝わるように、登場人物になりきってどのように音読すればよいかを考えることができる。 ・録音した音声をすぐに聞くことで改善点を考え、再度挑戦する。  ・繰り返し問題を解くことで、学習を定着させる。
まとめ (5分)	・タブレットドリルで学習した解答状況を確認する。 ・振り返りシートに本時の学習内容を振り返り、記入する。	・以前までの解答状況や所要時間と比較し、どこを理解できたかを振り返る。

## 1 人 1 台端末を活用した活動の様子

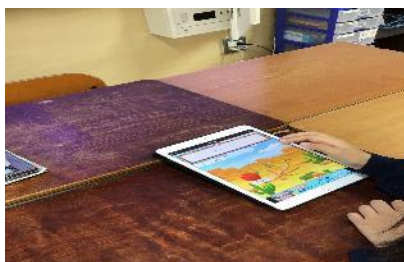


写真 1：「早打ち英文法」に取り組んでいる様子



写真 2：映像に合わせてアフレコしている様子



写真 3：タブレットドリルで復習している様子

## 児童生徒の反応や変容

- ・初めはスムーズにアフレコに挑戦できなかったが、本文をフレーズごとに音読する練習などを通して、徐々にアフレコできる量が増えた。
- ・アフレコすることで、実際に登場人物になりきって話すようになり、英語を話そうとする意欲の向上が見られた。
- ・教科書本文を何度も音読することで定着した内容を用いて、タブレットドリルの文法問題を考えることができ、正答率とスピードが上がった。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・アフレコは、何度も挑戦し、徐々に長く英文を話すことができるようになるにつれ、もっとうまく読みたいという意欲を引き出すことができる活動であった。
- ・生徒自らがアフレコした音声とデジタル教科書の音声と聞き比べることにより、生徒自身が発音で改善すべきポイントに気づくことができた。
- ・タブレットドリルで解答できなかった問題に何度も取り組むことで、正答率が上がり、解答時間も縮まり、ゲーム感覚で取り組むことができた。生徒の取り組みに対する意欲を高めることができた。